

# 平成 25 年度 第 1 回小笠原諸島世界自然遺産地域科学委員会 議 事 録

<日時> 平成 25 年 7 月 13 日 (土) 15:30~17:30

<場所> 現地：地域福祉センター2 階会議室  
内地：東京都島しょ振興公社会議室

<議事>

(1) 今年度の下部 WG の検討体制について

- ① 兄島グリーンアノール緊急対策 WG の進め方
- ② アクションプラン改定 WG の進め方
- ③ 新たな外来種の侵入拡散防止 WG の進め方
- ④ 父島列島生態系保全管理 WG の設置

(2) その他報告事項

- ① 平成 24 年度事業結果及び平成 25 年度事業予定
- ② その他

<出席委員>

現地：大河内委員長、苅部委員、川上委員、千葉委員、堀越委員、安井委員、吉田委員  
内地：阿部委員、可知委員、清水委員、田中委員 (欠席は海野委員)

<議事録>

(1) 今年度の下部 WG の検討体制について

① 兄島グリーンアノール緊急対策 WG の進め方

- ・ 兄島グリーンアノール緊急対策 WG 座長より資料 1-1 及び 1-1-2 を用いて説明。
- ・ 事務局より、兄島のグリーンアノール (以下、アノール) に関する IUCN 等への情報提供について報告。

○委員：兄島にアノールが入り込まないと思いついで、対策を取らなかったことが間違いだった。科学委員として反省している。想定外のことは今後も確実に起こるはずである。今後も同様の事態が起きるのは想定内である。その時に対応できるような人員と予算を確保できるかどうかは課題である。1~2 年程度で、管理機関で、緊急時に対処できるようなシステムを検討してほしい。

○委員：島の人が外来種対策の状況を最も知ることができるのは、ボランティアとして参加したときである。小笠原野生生物研究会 (以下、野生研) がアノール対策に参加したときに、環境省から、素人が参加しては危険であるとの注意を受けた。野生研はアカギの調査でキャベツビーチやタマナビーチから登って周辺全域を調べている。半数は女性であるが、しっかりと歩ける。ボランティアは自分たちの意思で自主的にするものであって、補助員として作業するものではない。予算をもらえれば野生研はボランティアとして独自に探索や捕獲を実施するので、検討してほしい。

○事務局：堀越委員の指摘のとおり、兄島にアノールが侵入することを想定していなかったことは反省している。今後想定される緊急事態としては母島や兄島にニューギニ

アヤリガタリクウズムシ（以下、ウズムシ）が侵入することなどが考えられる。そのような事態が起こったときに、どのような初動を取れるかが重要である。また、今後の兄島での取り組みについては、対策の結果を評価して、見直しをしながら、捕獲の目標を達成できるように努力したい。野生研とのトラブルについては、ご迷惑とご不快な思いをさせてしまったこととお詫びしたい。初動時に非常に危険な場所に入っていたので、安全管理について神経質になっていた時期であった。住民と一緒に考えて、一緒に動けるような方法を考えていきたい。

○委員長：世界自然遺産の理念の中には住民と共に保全するという考えがある。是非検討してほしい。また、想定外の問題として考えておかなければならないのはウズムシの侵入である。

○委員：アノールが兄島に侵入する可能性よりも、ウズムシが母島に侵入する可能性のほうが高いと考えていた。ウズムシの侵入時の対策は、まずフェンスを作ることである。環境省の事業で、ウズムシの侵入を防ぐ技術は開発されている。母島や兄島にウズムシが侵入した場合の費用は、フェンスを作ると考えると、数千万～1億程度かかることが予想される。また、兄島と同等の伐採が必要となる。まずは侵入させないことが重要である。侵入した場合は、予算をしっかりと確保して、対策に取り組む体制をつくることが重要である。

○委員：今回は年度末にアノールの侵入が確認されたため、年度内に予算を使い切る行政としては非常に困った事態となった。そこで IBO（小笠原自然文化研究所）が数百万円の持ち出しをして初期の対策を実施した。もし IBO が動かなければどうしようも無かった。今後の緊急対応として、小笠原基金や小笠原財団のような基金として担保していくことも検討課題としてほしい。

○委員長：対策に取り組めるように周辺を整えていくことも重要である。いただいた意見は、検討していきたい。

- ・グリーンアノール短期防除計画については科学委員会からの了承を得た。
- ・兄島グリーンアノール緊急対策 WG の委員については、座長が決めることとした。

## ②アクションプラン改定 WG の進め方

- ・WG 座長より資料 1 - 2 を用いて説明。

○委員：第 2 期アクションプランが公表される前に、地域連絡会議の承認を得る必要があるのではないかと。

○事務局：地域連絡会議で提示することは必要であるが、これまで承認という手続きは取っていない。次回の地域連絡会議は年度末を予定しているので、承認を得ることになると、アクションプランの公表が遅れてしまう。どのタイミングで地域連絡会議に提示するかは事務局で検討したい。

○委員長：反対意見は無いようなので、この方向で改定する限り、科学委員会は承認することによいか。

○委員：アクションプラン【兄島】改定の方向性の（2）基本方針①グリーンアノール

の根絶に向けた取組みに「・クマネズミの食性や・・・的確なコントロール手法の検討に着手する」と記載されているが、兄島でクマネズミを適当な数にコントロールすることは難しい。根絶のほうが簡単である。兄島ではネズミの激減により天然更新が進んでいるが、ネズミが増えることで元に戻ってしまう。コントロールではなく、絶滅にしてほしい。

- 委員：アノールが増えた理由の1つとして、アノールを捕食するクマネズミが減少したためである可能性が考えられる。もし、アノールがクマネズミの捕食によって数を減らしているのであれば、アノールを根絶した後に、クマネズミを根絶するという手順になるはずである。植物の更新を守ることは重要であるが、クマネズミをコントロールする方法は根絶に絞らないほうがよいのではないか。
- 委員：クマネズミがアノールをどの程度捕食しているのかは分かっていない。また、クマネズミは他の昆虫類も捕食する。クマネズミは根絶したほうがいい。
- 委員長：第一世代の殺鼠剤では兄島でのクマネズミの根絶は難しい。第二世代の殺鼠剤は強力なので、他の問題が発生する。ここでのコントロールには根絶も含めて、検討に着手するというにしたい。アクションプラン【兄島】改定の方向性については、注書きでクマネズミのコントロールには根絶を含むことを記載した上で、承認としたい。
- 委員：第3回 WG において、「兄島以外の島で必要な改定」となっており、最低限の改定に留めることとなっているが、前回のアクションプランの5年間には劇的な変化があり、それぞれの島での生物間の相互作用は大きく変わった。例えば、ノヤギの駆除によるギンネムの増加や、ノネコの駆除によるアカガシラカラスバトの増加などである。これらを踏まえると、それぞれの島の改定は時間がかかるため、1回のWGで終えるのは難しいのではないか。必要に応じてWGの回数を増やすことは可能か。また、第2期アクションプランの公表の時期はWGの回数によってずれることがあるのか。
- 事務局：アクションプランの改定を行う業務の発注の中で、会議の回数を定めているので、会議の回数を簡単に増やすことはできない。スケジュールについては事務局内部で調整したい。
- 委員：アノールの問題は非常に大きいので、集中して検討しているが、5年間のアクションプランなので、他の島についても手を抜くことなく、柔軟に対応してしっかりとした計画を作してほしい。
- 委員：第1期アクションプランでは外来種対策が主体になっていたが、第2期アクションプランでは外来種対策に捕らわれない、生態系管理を含めたアクションプランにすべきではないか。策定までの時間が無いのは分かるが、5年間のアクションプランなので、慎重に検討してほしい。
- 委員長：10月に策定する必要があるのは、アクションプランに空白の期間を空けないためか。
- 事務局：アクションプランは、各事業主体が今年度から動く事業の予算措置も含めて、必要な項目を洗い出すことが目的なので、空白はできる限り作りたくない。来年度の予算取りの具体的な動きに入るまでに整理したいので、10月が目標になっている。ただ、項目出しをしていく中で、決めきれない場合や時間がかかる場合は、10月までに

決めることと、それ以外を分けて段階的に検討するなど、対応の方法はある。

- 委員長：この5年間で大きな変化があったので、最低限の改定に留めるのは難しいかもしれない。10月時点を暫定版として、しっかり議論することなどを検討してほしい。
- 委員：昨年度に父島列島について議論した時も非常に時間がかかった。あまり拙速に定めて、5年間縛られるのは問題である。暫定版としておいて、その間にしっかりと議論するようにしてほしい。
- 事務局：暫定的にするにしても、順応的に見直す方法にするにしても、一度定めたことに5年間縛られることの無いような計画にしたい。
- 委員：5年間縛られるような計画にすると各々の問題に対処できなくなるので、毎年評価と見直しを行うなど、修正ができるようなアクションプランにするという方針で、アクションプラン改訂WGでは動いている。

- ・アクションプランは柔軟なものにすることを条件として、科学委員会の了承を得た。
- ・第2次アクションプラン案が出来た時点で、メーリングリストで科学委員に共有し、意見を得ることとした。

### ③新たな外来種の侵入拡散防止WGの進め方

- ・WG座長より資料1-3を用いて説明。

- 委員：兄島のヤギを駆除した後、外来植物のセンダングサ、シンクリノイガ、アイダガヤ、ルビーガヤが増えた。大規模事業を実施した後は、10種類程度の外来種が増加する。アノール対策においても外来種を侵入させない工夫をしてほしい。
- 委員：住民生活に最も関係する物資の輸送時の対策を検討するにあたっては、母島には世界遺産関係を職務として扱っている行政関係者がいないので、母島の管理機関または住民の声を対策に取り入れられるような体制を検討してほしい。
- 委員：安井委員の指摘については、植物の種子の拡散を防止することは今年度のWGの検討事項に含まれているので、今後検討していきたい。
- 委員長：父島から母島への物資の持込への対策について、母島の意見を聞くことは重要なので、検討してほしい。
- 委員：長期的には、効果的に新たな外来種の拡散を防止する方法が確立できると思うが、短期的には、法律上の問題や技術上の問題があって難しいという印象を受ける。新たな外来種が侵入する前提の元に、リスクの高い外来種をリストアップした上で、発見された時の初期対応を検討すべきである。これらの、初期対応については、アクションプランに記載すべきである。現在はアカカミアリなどの外来種が侵入した場合の体制が全く整っていない。アノールが母島の属島に侵入した場合や、ウズムシが兄島や母島に侵入した場合も同様である。
- 委員長：新たな外来種の侵入拡散防止WGとアクションプラン改定WGの両方で検討しなければならない事項であるが、形としては新たな外来種の侵入拡散防止WGで行動指針のようなものを示し、それをアクションプランが取り込むような形になるのではないか。

- 事務局：アクションプランは予算要求上で必要な計画でもある。新たな外来種の侵入時の初期対応を記載するような重い作業を入れると、全体の行動計画が止まってしまう。
- 委員：外来種の侵入初期の対応方針を定めた大雑把な計画だけでも入れておけばよいのではないか。
- 事務局：外来種の侵入初期の対応については必要性を感じているので、何らかの形で検討したい。
- 委員長：昨日、兄島から帰ってきてリュックを開けたら、中からカネタタキが出てきた。外来種はどんなに注意していても侵入するものである。侵入時の初動は非常に重要なので、是非検討してほしい。

#### ④父島列島生態系保全管理 WG の設置

- ・事務局及びWG 座長より、資料 1－4 を用いて説明。

- 委員：島しょ間移動種による影響を考える際、オオコウモリが非常に重要。オオコウモリは兄島や弟島にも飛翔していることが確認されている。是非、ほ乳類の専門家をメンバーに追加してほしい。

この WG の目標を明確化してほしい。検討の観点について、外来種対策のみに読めるが、森林生態系の保全管理に必要な基礎情報の収集を第一目標とすべきではないか。

- 委員：外来種対策の検討は目的の一部にすぎず、父島列島の森林生態系を一体的に保全・管理するための手法の提案が大きな目的である。5 年間に得られた成果については、その都度、アクションプランに反映していく。
- 事務局：ほ乳類の専門家の追加については、大河内委員長及び可知座長に相談して検討したい。

#### (2) 今後の予定について

##### ①平成 24 年度事業結果及び平成 25 年度事業予定

- ・事務局より資料 2－1 を用いて説明。

- 委員：プラナリア類侵入防止柵を設置するための予算をアノール対策に移したのであれば明確に説明してほしい。また、プラナリア侵入防止柵の予算が確保できた時点で着手する必要がある。
- 事務局：プラナリア対策の予算のうち、柵の設置に関する予算をアノール対策に移した。アノール対策で予算を大きく移したのは、ネズミ対策、外来植物対策、プラナリア対策である。ネズミ対策は 1 億円程度をアノール対策に移したが、それでも足りない部分を外来植物対策とプラナリア対策から移した。
- 委員：兄島の乾性低木林と父島の陸産貝類を量りにかけて、兄島の乾性低木林のほうが重要であると考えたため、予算を移してもやむをえないと判断した。予算が付くのであればプラナリア侵入防止柵は至急に設置すべきである。最近の調査でウズムシが柵のギリギリまで侵入していることがわかっている。そこを通過すると、父島に柵を

設置するのが不可能であり、母島にウズムシが侵入した場合に設置する柵をテストする場すらなくなる。

○委員長：予算を振り分けるといのは簡単な問題ではない。是非、千葉委員の意向を汲んで今後の対策を検討してほしい。

○委員：オガサワラグワ対策と海洋調査が一覧表に記載されていないので、記載してほしい。

○事務局：記載する。

○委員：事業計画に西島の植栽があるが、どのような植栽を行うのか。属島における植栽については外来種が侵入しないような配慮が必要なので注意してほしい。

○委員長：詳細については、後日メール等で田中委員に連絡してほしい。

## ②その他

○委員長：世界遺産委員からの要請でエコツーリズム協議会と密に連絡を取ることを求められていたので、昨日、エコツーリズム協議会と情報交換を行った。エコツーリズム協議会からは、ルール・ガイド制度検討作業部会の活動や、陸域マネジメントプランの検討課題について説明を受けた。陸域マネジメントプランについては、事故への対応と予防、ガイド登録認証制度、ルール、施設整備・歩道整備について、達成状況と問題点の説明を受けた。非常に多くのことが達成されている一方で、多くの課題も残っている。是非、関係組織・関係機関で協力してほしい。科学委員会としても情報の共有を努めていきたい。

以上